

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 八児 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成28年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

#### (1) 教科に関する調査(国語、算数)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none"><li>・身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容</li><li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力</li><li>・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力</li></ul>

#### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生は、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

### 3. 教科に関する調査結果の概要

#### (1) 全国・本市の学力調査(国語A・B, 算数A・B)の結果

本年度の結果	国語A		国語B		算数A		算数B	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	10.4	70	5.6	56	12.1	76	5.8	45
全国	10.9	73	5.8	58	12.4	78	6.1	47

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	・読む能力に関して比較的高い正答率である。言語知識理解が特に課題がある。 ・書く力を問う問題に課題があり、書くことを習慣化する必要がある。
	よくできた問題	・漢字を正しく読む問題や、目的や意図の応じて、書く事柄を整理する問題は正答率が高い。
	努力が必要な問題	・漢字を正しく書くことやローマ字で書くことやローマ字を読むことについては、無解答率が高かった。

国語B	全体的な傾向や特徴など	・読む能力に関して比較的高い正答率だった。 ・話す聞く能力の質問の意図を捉える問題に課題がある。
	よくできた問題	・グラフを基に、分かったことを的確に書く問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・目的や意図に応じて、表を基に、自分の考えを書く問題は、正答率が低く、無解答率が高かった。

算数A	全体的な傾向や特徴など	・数と計算の領域はほぼ理解できていたが、立体図形の問題が特に無解答率が高く、誤答も多かったため、空間認識が苦手なことがはっきりした。
	よくできた問題	・小数の除法の計算の確かめ問題、示された場面を適切に読み取り、全体の人数を求める式に表わす問題は、正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・1を超える割合を百分率で表す場面、基準量と比較量の関係を問う問題は正答率も低く、無解答率も高かった。

算数B	全体的な傾向や特徴など	・数量や図形についての知識・理解は比較的高い正答率だった。数学的な考え方を問う問題は、正答率が低く、無解答率も高かった。
	よくできた問題	・正方形に内接する円の半径を問う問題の正答率が高かった。
	努力が必要な問題	・グラフから貸出冊数を読み取り、それを根拠に、示された事柄が正しくない理由を記述する問題は、正答率も低く、無解答率も高い。

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>・授業のはじめにめあてが示され、授業の最後に学習内容をふり返る活動は、すべての児童の中に意識され、定着している。</p> <p>・授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っており、自分の考えを深めたり、広げたりすることはできているが、他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと感じている児童が多い。</p> <p>・宿題については、5年生の時と比較して、していると答えた児童の割合は増えているが、自分で計画を立てて1時間以上勉強している児童は少数にとどまっている。</p> <p>・自分にはよいところがあると思い、人の役に立つ人間になりたいと思う児童の割合は全国に比べて高い。それぞれの夢を実現させるために具体的な目標設定を行い、行動に結び付けさせることが必要である。</p>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

<p>◎国語科に絞った校内研究の実施</p> <p>・本校主題研修を「思考力・判断力・表現力を育成する授業の創造」～正しく読む力を育てる国語科学習指導のまとめ～とした。そのために、年間を通した読書活動、文章全体の組み立てをつかむための学習活動の工夫、書かれていることを根拠にして表現する言語活動の位置づけを手立てとして指導を行っていく。</p> <p>◎少人数学習等によるきめ細かな指導</p> <p>・全学年で算数科や国語科の少人数学習やTTによるきめ細かな個に応じた学習指導を計画的に実施する。</p> <p>◎学力向上のための全校一斉朝学習(やちごタイム)を見直し、基礎的・基本的学習内容の定着を図る。</p> <p>・月曜日から木曜日に「算数タイム」、火曜日に音読暗唱ブック“ひまわり”等を活用した「音読練習」、水曜日に「読書や読書ボランティアによる読み聞かせ」、金曜日に「国語タイム」などを実施する。</p>
---

② 家庭生活習慣等に関する取組

◎家庭学習のスタンダード化

・「家庭学習チャレンジハンドブック」や「八児小学校家庭学習の手引き」を活用し自分で計画を立てて家庭学習ができるように指導する。

※「八児小学校家庭学習の手引き」は、本校HP:学力向上に掲載

・児童の発達段階に応じた宿題の取組と徹底

・高学年を中心に自主学習ノートの取組を行うとともに、良い見本を掲示する。

・家庭生活・学習がんばり週間を保護者と連携して行い、よりよい家庭生活・学習の習慣化を図る。

・家庭学習マイスター賞への応募

◎読書習慣の育成

・読書ボランティアの方々の協力のもと、朝の読み聞かせに加え、昼休みのお話会を行う。

・夏休みや冬休みの図書貸し出しを積極的に行い、家庭での読書時間の確保を図る。